

# 横須賀市中小企業景況レポート

第53号（令和8年1月号）

編集・発行：横須賀市経済部経済企画課  
〒238-8550 横須賀市小川町11  
電話 046-822-9523

市内中小企業の景況感を調査しました。

調査対象は、かながわ信用金庫と湘南信用金庫が従来から行っている景況調査先のうちの市内企業に加え、横須賀市がさらに追加調査しました。

横須賀市中小企業景況レポートは、3か月に1回発行しています。

【市ホームページからもご覧いただけます。】

[横須賀市中小企業景況レポート | 横須賀市](#)

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4402/keikyoreport/yokosukasikeikyuripoto.html>

- ① 調査対象：市内中小企業
- ② 調査企業数：178社（うち、かながわ信用金庫+湘南信用金庫 調査129社）
- ③ 調査期間：前期・・・令和7年7～9月の景況感（調査時点 令和7年 6月1日）  
今期・・・令和7年10～12月の景況感（調査時点 令和7年 12月1日）  
次期・・・令和8年1～3月の景況感（調査時点           "           ）
- ④ 調査項目：景況、売上額、収益、雇用人員、資金繰り
- ⑤ 業種分類：製造業、建設業、卸・小売業、不動産業、サービス業
- ⑥ 集計方法：D I 値算出による（次ページにD I 値の説明あり）

## 景況及び4項目の調査結果（全業種）

\* D I 値調査結果は裏面に記載

\* 【 】は今期のD I 値を記載

**全業種の景況感は、前期【1P】から【△11P】となりました。**

今期の景況感は、製造業【17P】が20P大幅に向上し、不動産業【8P】は8P向上しましたが、建設業【△16P】が36P大幅に低下し、卸・小売業【△22P】は18P低下、サービス業【△17P】は8Pやや低下しました。

項目別では、収益【△16P】、資金繰り【△15P】は、それぞれ9P、8Pやや低下しました。売上額【△6P】、雇用人員【△34P】は横這いの状況です。

昨年同期（令和6年10月～12月）との景況感比較は、今期構成比【△11P】で、前期構成比【△4P】と比べ、やや低下しました。

景況感は依然として原材料費高騰による収益の影響や人手不足の声が聞かれます。

DI 値・・・良い（多い）、変わらない（普通）、悪い（少ない）の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い（多い）等の構成比（%）－悪い（少ない）等の構成比（%）を計算した値がDI 値となります。プラス値が大きいほど景況感が良く（好況）、マイナス値が大きいほど景況感が悪い（不況）と言えます。

このレポートは次の基準で景況感を分類しました。（マイナスは△表示）

向上 (15P以上)	やや向上 (6P～14P)	変わらない (△5P～5P)	やや低下 (△6P～△14P)	低下 (△15P以下)
↑	↗	→	↘	↓

## 業種別 調査結果と事業者の声

\*DI 値調査結果は裏面に記載

### (1) 製造業 景況感 【 17P <向上> ↑ 】 (前期比 20P)

前期と比べ、売上額【21P】、収益【11P】は、それぞれ24P、20P大幅に向上し、資金繰り【0P】も6Pやや向上しましたが、雇用人員【△48P】は15P低下しました。

次期は、雇用人員がやや向上の見込みですが、売上額が大幅に低下し、収益がやや低下する見込みです。

#### ☆事業者の主な声☆

- ・関税の影響により元請からの受注は中国生産分が日本へ移転したことで増加に繋がっている。日本国内の増産体制はしばらく続くものと見込まれている。
- ・現状多忙により新規受注依頼は受けられず、自社における人繰り、下請け調整を行い、外国人労働者の導入をしていく。

### (2) 建設業 景況感 【 △16P <低下> ↓ 】 (前期比 △36P)

前期と比べ売上額【△17P】、収益【△23P】は、それぞれ37P、32P大幅に低下し、資金繰り【△24P】は、15P低下しました。雇用人員【△50P】は、横這いの状況です。

次期は、売上額、収益が大幅に向上し、資金繰りがやや向上する見込みです。

#### ☆事業者の主な声☆

- ・人手不足や顧客都合による工事遅延により資金繰りに苦慮している。材料費や経費の値上がりで利益を圧迫しており、材料確保等に尽力している。
- ・資材高騰を受け建築を控える施主が増加した。

**(3) 卸・小売業 景況感 【  $\Delta 22P$  <低下>  】 (前期比  $\Delta 18P$ )**

前期と比べ、雇用人員【 $\Delta 22P$ 】は18P向上しましたが、収益【 $\Delta 29P$ 】は、22P大幅に低下し、資金繰り【 $\Delta 21P$ 】も7Pやや低下しました。売上額【 $\Delta 8P$ 】は横這いの状況です。

次期は、雇用人員がやや低下する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・諸経費の値上げに伴う原価高騰のため、引き続き販売価格に転嫁しなければならなく売上高は減少すると思われる。物価上昇に向けて対策に追われています。
- ・仕入価格・人件費・光熱費の高騰が当面続くと思われ、先行きは不透明。

**(4) 不動産業 景況感 【  $8P$  <やや向上>  】 (前期比  $8P$ )**

前期と比べ、収益【 $\Delta 8P$ 】は、7Pやや向上しましたが、売上額【 $\Delta 17P$ 】は17P低下し、資金繰り【 $0P$ 】が8Pやや低下しました。雇用人員【 $\Delta 17P$ 】は横這いの状況です。

次期は、売上額、収益が向上する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・建築資材、物件価格の高騰から採算の合う仕入が出来ていない。
- ・材料費高騰による高めの価格設定、景気先行き不透明感、今後の金利動向に対する不安により、一般住宅については顧客側も様子をうかがっている状況が続いている。

**(5) サービス業 景況感 【  $\Delta 17P$  <やや低下>  】 (前期比  $\Delta 8P$ )**

前期と比べ、収益【 $\Delta 13P$ 】は、8Pやや向上しましたが、資金繰り【 $\Delta 15P$ 】は12Pやや低下しました。売上額【 $\Delta 11P$ 】、雇用人員【 $\Delta 31P$ 】は、横這いの状況です。

次期は、売上額がやや向上しますが、資金繰りがやや低下する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・仕入価格の高止まりや光熱費等の固定費増加が収益を圧迫している。
- ・代表者、従業員ともに高齢であり、顧客も高齢化しているため現状維持。常連のみの対応をしており徐々に縮小事業傾向。

DI値 調査結果

前・・・前期 令和7年7月～9月の景況感（調査時点 令和7年9月1日）  
 今・・・今期 令和7年10月～12月の景況感（調査時点 令和7年12月1日）  
 次・・・次期 令和8年1月～3月の景況感（調査時点 令和7年12月1日）



業種別調査企業数(回答数)

(単位：社)

	全業種	製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
前期	159	33	34	45	13	34
今期	178	29	30	58	12	49
次期	178	29	30	58	12	49

(単位：ポイント)

項目	業種			全業種			製造業			建設業			卸・小売業			不動産業			サービス業		
	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次			
景況																					
景況全般について総合的な概況をお聞きました。																					
良 い(A)	22	15	13	21	31	17	29	17	20	27	7	7	15	8	25	12	14	12			
変わらず	57	59	67	55	55	69	62	50	60	42	64	67	70	92	67	67	55	68			
悪 い(B)	21	26	20	24	14	14	9	33	20	31	29	26	15	0	8	21	31	20			
DI値(A)－(B)	1	△11	△7	△3	17	3	20	△16	0	△4	△22	△19	0	8	17	△9	△17	△8			
今－前 / 次－今	△12	4	20	△14	△36	16	△18	3	8	9	△8	9	△8	9	△8	9					
売上額																					
製造業については、生産品を出荷した額をお聞きました。																					
好 転(A)	24	20	19	24	31	21	32	20	27	27	21	14	15	0	17	15	16	18			
変わらず	51	54	61	49	59	58	56	43	56	40	50	64	70	83	66	59	57	62			
悪 化(B)	25	26	20	27	10	21	12	37	17	33	29	22	15	17	17	26	27	20			
DI値(A)－(B)	△1	△6	△1	△3	21	0	20	△17	10	△6	△8	△8	0	△17	0	△11	△11	△2			
今－前 / 次－今	△5	5	24	△21	△37	27	△2	0	△17	17	0	9	△17	17	0	9					
収益																					
売上から経費を引いた収益状況をお聞きました。																					
増 加(A)	18	12	15	21	21	17	24	7	17	24	7	12	8	0	25	3	18	14			
変わらず	57	60	60	49	69	69	61	63	63	45	57	52	69	92	58	73	51	62			
減 少(B)	25	28	25	30	10	14	15	30	20	31	36	36	23	8	17	24	31	24			
DI値(A)－(B)	△7	△16	△10	△9	11	3	9	△23	△3	△7	△29	△24	△15	△8	8	△21	△13	△10			
今－前 / 次－今	△9	6	20	△8	△32	20	△22	5	7	16	8	3	7	16	8	3					
雇用人員																					
需要に対応できる労働状況をお聞きました。																					
多 い(A)	1	4	3	0	0	0	3	0	0	0	9	5	0	0	0	0	6	4			
適 正	61	58	59	67	52	59	44	50	47	60	60	61	85	83	83	68	57	61			
少 ない(B)	38	38	38	33	48	41	53	50	53	40	31	34	15	17	17	32	37	35			
DI値(A)－(B)	△37	△34	△35	△33	△48	△41	△50	△50	△53	△40	△22	△29	△15	△17	△17	△32	△31	△31			
今－前 / 次－今	3	△1	△15	7	0	△3	18	△7	△2	0	1	0	△2	0	1	0					
資金繰り																					
資金繰りが上手く行っているかを判断するためお聞きました。																					
余裕がある(A)	12	8	7	12	14	14	9	3	3	13	5	7	8	0	0	15	14	8			
支障がない	69	69	72	70	72	76	73	70	84	60	69	65	92	100	100	67	57	63			
苦しい(B)	19	23	21	18	14	10	18	27	13	27	26	28	0	0	0	18	29	29			
DI値(A)－(B)	△7	△15	△14	△6	0	4	△9	△24	△10	△14	△21	△21	8	0	0	△3	△15	△21			
今－前 / 次－今	△8	1	6	4	△15	14	△7	0	△8	0	△12	△6									

<参考>昨年同期と現在の景況感比較(回答150社)

	企業数	今期構成比	(参考) 前期構成比
昨年と比べ「景況感」は良い(A)	24社	16%	17%
昨年と比べ「景況感」は変わらない、横ばい	85社	57%	62%
昨年と比べ「景況感」は悪い(B)	41社	27%	21%
DI値(A)－(B)		△11P	△4P

